資料５

『カーボンニュートラルの実現に向けた社会実装の推進』提言書
正・副会長会でのご指摘と対応状況

エネルギー・環境委員会事務局

● 正・副会長会（7 月 26 日）

主なご指摘	対応状況
・産学連携をしていくイメージは良い。ただし、現状はここまで大学と企業は分かれていない。 ・企業から大学には人が来ているが、大学から企業には行けていない。 ・人流ができて交わっていくと、企業にとって必要な人材が見えてくる。 もっと積極的に人流が進むことで産学連携は進む。 ・具体的にどういう組織にして、どのように全体を見て進めていくか、工夫がいる ・大きなテーマを進めて行く時に、必ず協調領域からあるところまで進めないといけない。その先に競争領域がある。	第 3 章提言　2.産学・産産連携に新規追加 企業と大学の間での人材の移動を活性化させ、産学連携の深化を図ることが求められる。企業側は大学へ派遣するだけでなく、大学研究者を受け入れる体制・仕組みを整えるべき。
・カーボンニュートラルの実現に向けた社会実装の推進という大きなテーマにおいて、産学連携以外も課題がある。税、規制、法律がネックとなる ・一極集中から分散型社会によりカーボンニュートラルは進む	第 3 章提言　5.規格化・標準化戦略、6.ファンド資金調達の活用に織り込み済み（本誌への追加記載はなし）
・外部とも進めている中で、守秘義務もあり、公に出せない情報もある。中経連の組織がどこまで入って何をやれるのか ・中経連の組織として何人がこのプロジェクトに関与するのか。国プロになるようなプロジェクトを、例えば 10 社集めて 100 億円のファイナンス付けるようなマネージを中経連がするということでよいか	フラッグシップモデルを進めていく中、中経連は試行錯誤しながらマネジメントを後押ししていく （本誌への追加記載はなし）